

## 藤原俊成ってどんな人？

平安～鎌倉時代の公家。歌の才覚を持ち、千載和歌集の撰者で広く知られます。子は百人一首の歌人藤原定家。  
俊成は、約3年半三河国国司として未開だったこの地を開拓したとされ、「蒲郡開発の祖」と言われています。

## 藤原俊成と八百富神社との関わりって？

1181年に滋賀県の竹生島から勧請（神霊を分けること）されたのが、竹島にある八百富神社です。藤原俊成が国司を務めたゆかりから勧請したとい伝えられます。



## 竹島へ渡ると

竹島一帯は、時には橋が鳴るほど強い風が吹きます。しかし、竹島の鳥居をくぐると、風がすっと止みます。地形のせいだと思いますが、神秘的な空気と重なってまるで別世界のように感じます。

## 八百富神社から

八百富神社は市杵島姫命という女の神様がまつられており、縁結びのご利益があると多くの参拝者が訪れます。また、八百富神社には「大大吉」が出るというおみくじもあり、人気スポットに。



島内には八百富神社の他に4つの神社があり、それぞれご利益が異なります。  
宇賀神社（五穀豊穡）八大龍神社（厄除け）大黒神社（豊作）千歳神社（長寿・芸上達）

## 宮司おすすめスポット！



竜神岬（島の反対側）

島は、古くから力や神が宿る場所とされています。訪れた人には何かを感じて欲しいです。  
八百富神社にいられる方の中には、ここに神社があることを知らずに訪れる方もおり、皆さん「また来たい」と言っていたできます。自然と足が向いては、心がスッキリとして帰るそんな場所なのかもしれませんね。

自然と足が向く場所  
それが竹島



八百富神社 宮司 市川 典明

## ～滝信四郎が愛した竹島風景～ 竹島には橋がなかった？

竹島は、12年に1回の竹島弁天御開帳時のみ渡ることができる島でした。そのため、当初は船で島へ渡り、そのうち御開帳の年だけに木造の仮橋が架けられるようになりました。その頃、大正元年に和風旅館「常磐館」を開業した滝信四郎が竹島の発展を願い、昭和7年に橋を寄付しました。蒲郡の地を愛した滝さんの思いは、今でも継承されています。

